J．C．O．S．M

Vol.18, No.6 (Nov. 1988)

1988年11月1日発行
（通巻第104号）

全科協ニュース

全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel.03-822-0111（大代）
Fax. 03-824-3298

おもな内容：◇共同企画展開催に向けて　市立名古屋科学館　三輪　克
◇エボリュオンの終焉　科学技術館　水嶋　英治
◇全科協北から南から
◇加盟館園紹介

共同企画展開催に向けて

市立名古屋科学館技術課長　三　輪　　克

科学館を始めとする理工系博物館では，従来展示事業の中心は常設展示であり，企画展あるいは特別展という短期間の展示にはそれほど比重をかけていなかった。

しかし，科学技術の成果・先端技術の紹介などを使命とする科学館では，発展著しい科学技術の進歩に対応して，常設展示を頻繁に更新していくことは経費面などからも困難になっているのが実情である。

そこで，常設展示の陳腐化を補い，さらに入館者増加対策の一つとして，近年では年１～３回の特別展開催に力を入れるようになってきた館が多い。

特別展の実施に当って，各館各様に事情があり，毎年の開催には担当者（学芸員）を悩ませることになる。なかでも展覧会の企画立案こそ，一番の問題と言えよう。開館後まもない館では，年々入館者数が下降傾向というところも少なくない，何か企画展で人を集めたいと考え，他館の事例を参考に企画を練っている。

自館だけでは，職員の数も少なく予算も限られている現状の中で，どのようにしたらより良い企画展開催が可能か，他館ではどのようにしているのか。共同企画，開催ということができないだろうか……。

以上の様な考えを踏まえ，去る10月28日に国立科学博物館において，共同企画展開催に関する情報交換会が開催された。今回は山口県立山口博物館のご尽力によって準備がされ，理工系博物館を中心に11館から16名の出席者があり，活発な意見が交わされた。

情報交換会では，自己紹介の後，各館の実情が詳細に紹介された。持寄った資料には，過去の企画展のタイトル，内容，展示資料，予算，展示図面，資料借用先等企画担当者ならではの得難いものであり，合わせて来年度の計画案も説明があり，今後の企画に大変参考になった。

出席者の発言をまとめると，企画展の開催回数は年１回大規模なものか，２～３回が多い。開催時期は４－５月，７－８月，10月－11月に集中し，公立館では年度に跨がる開催が難しいという例もあった。開催経費は１回当り平均300万～1,000万円以上まで様々だが，経費の多少は企画内容に影響を及ぼす重大な問題である。新設館が比較的多くの予算を持ち，開館年度の古い館が少額の予算で苦労している様子が伺われ，改善策を検討中と報告された。

企画展開催に際して協力機関，企業等の数の多いことも特徴的である。テーマが最新の科学技術であれば，外部団体の協力に頼らざるを得ない。担当者はそのための交渉などに相当の準備と配慮が必要となり，席上発言にあった苦労話も，他では聞けない貴重なものであった。

全科協加盟館相互に資料の貸借や，類似の企画展テーマを取上げて，密接な情報交換を行って，展覧会の内容を充実させ成功した事例も紹介があった。

また，日頃の情報交換にパソコン通信を使い，データの送受や問合せをしているネットワークも話題になった。電気通信科学館をホストとする「ＭＵＳＥ－ＮＥＴ」を活用して，出席のなかった全科協の加盟館を含めて，情報交換の場を広げることが可能になろう。

今回の情報交換会は，企画展をテーマにした初めての集まりで，共同企画展の具体的内容を選定するまでには至らなかったが，今後より密接な情報交換により，65年度開催分に向けて，共同企画展に関する準備を推進していくことを申し合わせて散会した。　（以上）

※出席館：山口県立山口博物館，神戸市立青少年科学館，福島市児童文化センター，電気通信科学館，交通科学館，市立名古屋科学館，交通博物館，新潟県立自然科学館，横浜こども科学館，科学技術館，国立科学博物館

［海外博物館レポート］

エボリュオンの終焉

科学技術館　企画開発事業部　　水嶋英治

世界の大手電機メーカー，フィリップス社が運営するオランダのエボリュオンは年内にも閉館されることとなった。サイエンスセンター的施設，企業博物館の先駆ともなったエボリュオンが閉館することは，市民はもちろん，博物館関係者にとってもショッキングなニュースである。誰しも閉館の理由は関心あることだが，企業博物館の，しかも遠い国のお家の事情は知る由もない。

去る5月11日，私は同館を訪れ，教育担当のスライター博士に面会を申し込んだところ快くインタビューに応じてくれたので，以下その内容をお伝えしたい。

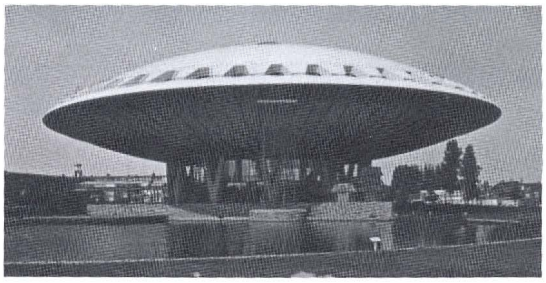
エボリュオンがオープンしたのはフィリップス社75周年事業の一環として，今から22年前の1966年である。フィリップス社のショールームができるのだろう，と考えていた市民の期待とは裏腹に，教育的で，しかも娯楽的施設であったため予想以上に好評を博した。しかし，今日ではここの社会的使命が終わったので閉館することとした。この点について以下簡単に説明しよう。

社会状況の変化

「エボリュオンは，社会と科学技術の相互関係と，科学技術の発展を示すために誕生した。当館が開館した20数年前の科学技術と今日のそれとは全く比較できない。たとえば，社会と科学技術の関係を見ても一目瞭然だ。科学技術は社会の外側にあるもので，我々の生活とは関係ないと，当時は誰もが考えていた。電機製品を販売するためには，まず国民の教育から始めなければならなかった。光と音の基礎物理学を学ぶと同時に，製品知識についても国民は学ぶべきことがたくさんあった。

しかし現代では，科学技術は社会の一部であり，日常生活の一部となっている。中心的存在でもあり，これなしでは生活できない。もはや，このことを国民に語る必要もなければ，社会と科学の関係を云々したり，まして電機製品の使い方などを言う必要はない。

私達はこのことを十分認識する必要があるのだ。具体的な例をあげれば，テレビのチャンネルひとつとってみても，スイッチを入れるのは親の役目であり，子供には許されていなかった。25年前の生活習慣は今日では想像もできない。白黒テレビからカラーテレビに替わり，各家庭にはパーソナル・コンピューターが入り，子供たちは自由に使いこなしている。



エボリュオン概観

もし，エボリュオンような施設が今日でも必要ならば，それは最先端科学技術を示す施設であろう。あるいは，原子力発電やハイテクノロジーに関する施設，国民の関心が高い話題を取り上げる施設であると思う。エネルギー問題も国民の関心が深いと思うが，当社としては省エネルギーについてはあまり触れたくはない。(笑)。

閉館の理由

「閉館の理由は幾つかある。第1は，先に述べた，社会背景の変化である。

第2は，フィリップス社にとってもっと重要なことだが，企業方針の転換である。一言でいえば，「販売戦略の強化」だ。従来は，CI（コーポレイト・アイデンティティ）の一環として，よいイメージを植え付けることに努力してきた。エボリュオンの運営もその一つだった。自社製品の良いイメージを与えることによって購買意欲を盛り上げ，製品もソフトイメージで販売していた。

しかし，今後は当社の製品を前面に押し出し，直接的販売に結びつけるような努力をしていくつもりだ。特に日本企業に対しての対抗策として，いうなればソフトセリング（soft selling）からハードセリング（hard selling）へと切り替え，徹底的に販売戦略を押し進める。

また，私達は1990，91年のフィリップス社100周年記念事業に向けて新しい館を建設することを考えている。これは，コーポレイト・センターとして位置づけているので科学館的施設ではない。この計画には，現在のところ3案ある。場所を移し，新しい発想で新しい建物を建設する案，ここの建設をそのまま活かす案，それと中間の案だ。全て予算次第であるが，新しい酒には新しい器

が必要だと思う。

さらに言えば，企業戦略としてグローバルな視点から“世界企業”というのを考えている。これはトータル・ニュー・コンセプトに基づいたもので，極めて論理的なものだ。日本と伍していくためには，今までのナショナルカンパニー制を廃止し，フィリップス社は一つの企業となる必要がある。例をあげれば，オランダ・フィリップス社とかフランス・フィリップス社という国別の企業組織を改編することだ。なぜなら，ひどい時には，同じ企業でありながら競争しているからだ。これを改め『フィリップス社は一つ』という新総合計画ともいうべきCIを推進させていく。この点はこれ以上話すわけにはいかない。

第3に，もっと率直に認めなければならない点であるが，入館者の減少である。開館当時は年間60万人だったものが，1980年ごろから毎年およそ10%ずつ減少を続け，昨年は開館当初の半分，約30万人だった。

この点について，私見だが，入館者減の背景を分析すると次のようになる。まず挙げられる原因は，ヨーロッパにおける科学館，サイエンスセンター的施設の増大だ。フランスにはラ・ビレットができ，イギリスのブリストルにもサイエンスセンターができた。国内にもいろいろな計画がある。（注1）。見学者はレジャー時間の増大によって，いろいろなところに行くことが多くなったし，金もいろいろなところに使う必要があるので，ここだけには使わなくなったのだろう。

競争社会の原則として，競争したり，切磋琢磨していくことは良いことだが，見るところどこの館でも来館者の奪い合いをしているようだ。少なくとも科学館の世界では競争するのではなく互いに協力していかなければならないと思う。

エボルリュオンの展示室

産業廃棄物，環境汚染をテーマとした展示は，オープン当初から産業界，教育関係等にとって，センセーショナルな展示として評判になった。

展示の魅力の欠如

「もっと大きな原因は，エボリュオンの展示に魅力がなくなったことだ。<展示はそれ自体で語らしめるべきもの>というのがここの展示方針だ。しかし，大半の展示はボタンを押すだけだ。ここに限らず，どこの科学館を見てもそうだ。どこの展示もコピーのコピーだ。コピー自体は悪いことではない。科学の真理は一つだからだ。しかし，観客の目は相当肥えている。この展示のままでは最近流行のインタラクティブ展示とはいえない。もっと展示手法が開発されてしかるべきだ。開館当初は確かに魅力的だった。エキスポラトリアム，オンタリオサイエンスセンターとともに，ここの展示は世界の手本となったことが証明している。

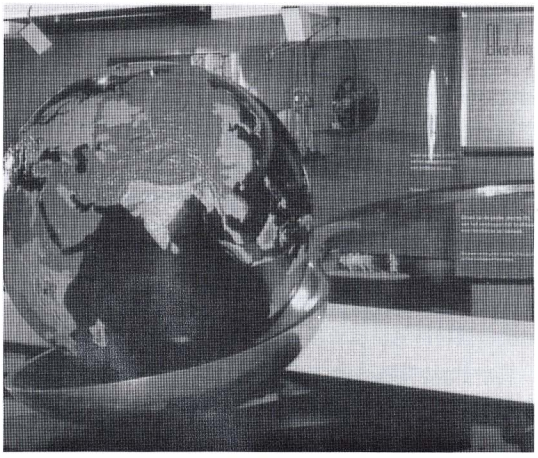
しかし，入館者が減少し始めたころから，もう既に展示には魅力が欠けていたのだ。ボタンを押しても，映像や展示の動作が始まるまでの数秒間待つときのあの退屈さ！正常な展示の動作でもその動きが遅いために，観客は故障しているのではないかとさえ考えてしまう。ボタンは家庭でも，いやというくらい電機製品のボタンを押している。ボタン式展示は，音でたとえれば騒音だ。決して音楽ではない。教師も教えなくなったし，ここの展示も教育の道具として，また企業の広報宣伝の道具としては，何も教えることがなくなった。

展示更新は年に10%の割りで新展示に替えていた。しかし，残り90%は同じままなので，観客の印象は全く変わっていないと思っている。閉館しようとの声がでてきてからは更新していない。

総合して考えると，エボリュオンの社会的使命は終わったと判断した。しかし，りっぱに成し遂げたと思っている。

空から見たエボリュオン

宇宙船を思わせる展示館と高さ55mの展望タワーは完成当時，子供たちに大人気であった。
手前右の建物には，レストラン，エントランスホール，映画ホールなどがある。



エボリュオン展示室

閉館の予定

オランダには，このようなサイエンスセンター的存在が必要なことは十分承知している。しかし，ここから北に40ｋｍ離れた場所に，PTT（注２）と大手銀行が協力して“コスモスセンター”と呼ばれるセンターが開館する予定であるし，フィリップス社も協力している。

日本にも多くの企業博物館があることは知っている。今後どうなるのか，私にも興味あるところだ。ここの正式な閉館日は定まっていない。おそらく半年以内であろう。現在のように運営費，宣伝費のない状況で，しかも故障展示品のままでいつまでもオープンさせているわけにはいかない。

エボリュオンの機能は３つあった。第１は企業発展のため，第２はサイエンスセンターとしての教育活動のため，第３は娯楽施設の機能として。しかし，フィリップス社にとっては，エボリュオンのサイエンスセンター的機能は一つでしかなかった……。」

以上がインタビューのアウトラインである。話のなかには耳の痛い点も幾つかあったが，他人事でなく，しかも重要な内容ばかりである。

企業の見解を語るときの博士の語調は，時に厳しくなりながらも，しかし整然としていたが，一個人としての感情を語るときの口もとには哀しい表情が見え隠れしていた。同僚が去り，我が身も嘱託となり，メンテナンス技術員も去ってしまったという。予算削減のために故障展示品も放置したままである。展示の開発に取り組み，エボリュオンを愛し続けた彼にとって，見るに忍びない姿なのであろう。

スライター博士は，自ら演じる最後のサイエンスショーを見せてくれた。「展示はそれ自体が語るもの」という展示方針の限界を補うために，実験ショーの開発に力を入れてきた博士は800に及ぶ演示実験を開発したという。最後の実験内容も全て彼がストーリーを考え，シナリオを書いたものだった。研究所勤務のときにコンパクトディスクの開発に取り組んできた彼の最近のヒット作品は「音とコンパクトディスクの物理学」である。この実験とアンコールに応えて演示して見せてくれた「水の中で燃える火」(液体酸素）に，20数名の観客は釘づけにされながらアッという間に１時間半を過ごした。火を使って危なくないのですか？という見学者からの質問に対して「水の中で燃えているから大丈夫！」と観客を笑わせながら，瞳からこぼれ落ちるひとつの雫が暗い部屋の中で静かに燃えるロウソクの炎に反射されて，美しく，そしてきらりと輝いた。

『エボリュオン』ーその名は進化（エボリューション）に由来する。しかし，近い将来，たとえそれがコーポレイトセンターであろうと，新たな発想と展示手法で私達を魅了する館がまた誕生するかも知れない。今よりもさらに進化した形で……。

（注１）オランダのサイエンスセンター的施設としては次の館があげられる。

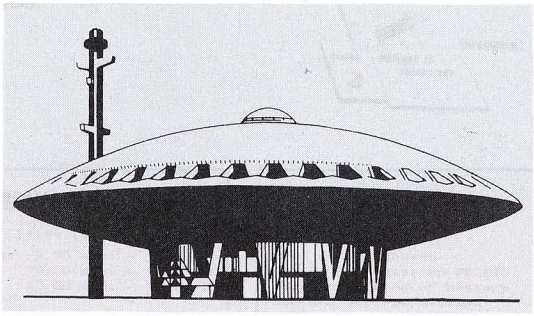
・技術博物館（アムステルダム）：
Technish Museum NINT（Nederlands Instituut voor Nijverheid en Techniek）

・ムセオン（デン・ハーグ）：Museon
この館の裏には最近オープンしたオムニマックス映像館Omuniversumがある。

（注２）郵便電信電話局

文中の写真資料は，電気通信科学館にご協力いただきました。

エボリュオンは，年内に閉館するとの決定がされたそうです。1990年代には，新館が誕生しているはずで，その時には本紙でご紹介したいと思います。（事務局）



全科協　北から　南から

出版物のお知らせ

○「岩手の雑穀―処理用具と調理法の調査記録」（仮称）

岩手県立博物館では，コメ以前の主食にまつわる物質文化・食文化を探ることをテーマに，ヒエ，アワ，キビの種蒔から収穫，調理までの過程を調査した。今回この全記録を写真，実測図と合わせて伝統的な食事を多数記載した調査報告書を刊行することになった。

発行予定は，1989年２月。Ｂ５判・130ページ（予定）価格2,000円程度（予価）。発行部数が少ないため，購入予約を受付けている。購入希望の方は，往復葉書で下記へ。

〒020―01　盛岡市上田字松屋敷34
岩手県立博物館　学芸第３課
問い合わせ：電話0196-61-2831

○エクスプロラトリウム『クックブック』

全科協ニュース紙上で紹介したクックブックの内容は，予想以上の反響があり，担当者も驚いています。

当事務局宛に問い合わせのあった館園には，まとめて直接輸入をした㈱ゼネラルサイエンスコーポレーション（全科協維持会員）を，Vol. 18，№1の記事どおり紹介しています。

今後入手希望のある加盟館のために，追加輸入の計画もあります。クックブックⅠは，70米ドル，Ⅱは50米ドル，Ⅲは70米ドルです。３冊セットで35,000円（航空小包代，パッキング費，輸入手数料，国内輸送料等を含む）となっています。

なお，エクスプロラトリウムでは，現在クックブックⅣを編集中で，年内に出版予定とのことです。

問い合わせ先：ゼネラルサイエンスコーポレーション
電話03-583-0731　担当：中川

○全科協加盟館園の出版物

○昭和62年度　青少年科学活動促進事業報告
和歌山県立自然博物館
○岩手県立博物館収蔵資料目録　第３集　生物Ⅰ　1988
○岩手県立博物館収蔵資料目録　第４集　地質Ⅰ　1988
○楽しい科学教室　第２集　1988
広島市こども文化科学館
○コンピュータ教室開催状況報告　昭和62年度
横浜こども科学館
○ヨコハマ～サンディエゴ　こども科学交流報告書
横浜こども科学館
○郷土と博物館　第33巻第１号　1987．9
鳥取県立博物館
○郷土と博物館　第33巻第２号　1988．3
鳥取県立博物館
○鳥取県博物館研究報告　第25号　1988
○府中市郷土の森紀要　第１号　1988．3
○蛇浦の民俗調査報告書　青森県立郷土館調査報告第23集　民俗―11
○調査研究年報　第12号　昭和62年度　青森県立郷土館
○名川町剣吉荒町遺跡（第２地区）発掘調査報告
青森県立郷土館調査報告第22集　考古―７
○秋田県立博物館研究報告　第13号　1988
○埼玉県立自然史博物館研究報告　第６号　1988
○埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録　第２集　鉱物(1)　1988
○埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録　第２集　地衣類(1)　1988
○パソコンプログラム学習　サイエンスガイド№7
岐阜市少年科学センター
○科学館学習ブック（追録）　札幌市青少年科学館
○新科学館実施設計報告書　1988．3　仙台市科学館
○「五島プラネタリウム学芸報」第14集　1988．7
天文博物館五島プラネタリウム
○岩手県立博物館年報　昭和62年度　1988．10
○岩手県立博物館研究報告　第６号　1988．8
○釧路市立博物館紀要　第13輯　1988．3
○釧路市立博物館収蔵資料目録（Ⅷ）植物標本目録(4)
○事業概要　昭和63年度　東京都児童会館

特別展図録・解説書

○「きんぎょ」　和歌山県立自然博物館
○「日本人の起源」　国立科学博物館
○「天皇陛下の生物学ご研究」　国立科学博物館
○「恐竜の時代」　群馬県立歴史博物館
○「湖州鏡と古鏡展」第23回釧路市立博物館特別展図録
○第２回工作コンクール作品集　東京都児童会館
○「鬼・オニ・おに」昭和63年度第２回企画展図録
岩手県立博物館
○「わらうま―その民俗と造形」　馬の博物館

※入手希望の場合は，直接各館宛にお問い合わせください。

MUSE—NET

MUSE—NET（ミューズネット）に，書きこまれた記事の中から，全科協関連の話題をとりあげて，ここにご紹介します。

ご意見や感想などを事務局宛にお知らせください。

＊＊＊＊＊＊＊

レポート

＜＜原子炉衛星コスモス1900の落下について＞＞

昨年12月12日に打ち上げられたソ連の人工衛星コスモス1900は，小型原子炉を積む海洋監視衛星とされています。ところが，今年の４月13日頃から軌道がすこしづつ落ちており，なんらかの故障がおこったと思われます。

私ども（財）横浜市青少年科学普及協会で最近作成した落下予測図を見ると，10月頃（10月後半から11月早々）に落下してきそうなことがわかります。どこに落ちるかはその数時間前までわかりません。放射能を含んだ破片が広い範囲にばらまかれるので心配です。（人口の密集していないところや海の上に落下するとよいのですが）

コスモス1900の落下予測については，さらに新しいデータに基づき今後も週に１度実施していきます。（関連したニュースはテレホンサービススペースダイヤル（045-833-1000）あるいは BBSの「Space Board」（045-832-1177）でも時々お伝えしています。

私どもでは，夕方か明け方に，肉眼でも観測可能である人工衛星の観測を科学教育上有効な素材と見ており，指導をすすめています。

また，熟練してきますと，その観測データーは学術的にも価値を持つものとなり，そうしたことが観測者にとってもやりがいになると思われます。

近いうちに，簡単な指導書をまとめる予定ですが，うちでもやってみたいという館や学校の先生がいらっしゃいましたら，E－MAILかSNAIL－MAILでご連絡ください。この件に関する直接の担当は山田です。

login name：YAMADA

郵便番号235

横浜市磯子区洋光台５－２－１

（財）横浜市青少年科学普及協会　天文事務室

山田　陽志郎まで

〔1988．７．17．付〕

＊＊＊＊＊＊＊

ごあいさつ

ハーイ，みなさん　こんばんは！

たばこと塩の博物館の半田です。

やっとパソコン通信の仲間入りができました。

掲示板から

まだわからない事だらけですので，いろいろと教えて下さいよろしくお願い致します。

わたしの LOGINは，HANDAです。

MATSUKI もよろしく！

＊＊＊＊＊＊＊

今年度の博物館事業研究会は，テーマが次のようになりました。

「科学博物館の展示・教育普及活動・研究活動」

つきましては，事例発表をお願いできるような館をさがしています。最近のユニークな展示，特別展。教育活動の新しい工夫や方法。研究活動の成果など，他館の参考になるようなところを，ぜひ，ご紹介ください。お願いします。

なお，実施は２月ですので，今年度進行中のところでも，結構です。

全科協事務局　　若宮広和

＊＊＊＊＊＊＊

新潟県立自然科学館から問い合せがありました。

公立（国，県，市など）の博物館で，展示室にコンパニオンが配置されている館は，どのくらいあるのでしょうか？

当方で，わかる範囲では，青森県郷土館，岩手県博物館，仙台市博物館，新潟県立自然科学館，神戸市立青少年科学館でした。

これ以外に，御存知の方，お知らせください。

＊＊＊＊＊＊＊

この件について，４館からさっそく連絡がありました。

（事務局）

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

横浜こども科学館　天文テレフォンサービス

＜●◎　スペースダイヤル　◎●＞

天文のニュースが，24時間いつでも聞けます。

電話番号　　：045-833-1000

時間　　：４分間

サービス時間：24時間

内容の更新　：毎週金曜日

内容：　今週の天文現象，天文ニュース

今週の惑星，月，すい星の予報

ミールなどの人工衛星の予報

人工衛星の軌道要素

他

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

＊＊＊＊＊＊＊

コンピューターによる目録管理

理工系，文化系問わず博物館の中心的業務のひとつが，様々な資料の目録作成とその検索があります。そうした目録づくりを紙でやるかコンピューターでやるかで，能率は大きく違ってきます。特に件数が膨大になると，コンピュータ化しておけばよかったぁ．．．ということになります。

いっそう，目録なんて！いらない！などといっていると，こんどはせっかく蓄積された有用な資料が活用されにくくなります。

というわけで，コンピューターという道具を使えるかどうかは，電話を使えるかどうかぐらい博物館環境にとって重要になっていると思います。

横浜こども科学館に博物館実習にくる学生さんにも，選択コースとして，コンピューターによる目録検索の簡単な実例を紹介するようにしました。（今年から）

展示に直接現われない，陰の存在としてのそんなコンピューターの活用のされかたについても意見や情報を交換できればと思います。

（財）横浜市青少年科学普及協会　山田陽志郎　（YAMADA）

＊＊＊＊＊＊＊

お詫びとお知らせ

夏季特別展の準備のため，このMUSE―NETを７月29日夜から７月31日午前中まで無断で止めてしまいました。

こちらの手違いで，何の連絡もせず突然止めてしまい，皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び致します。今後は，必ず事前にお知らせするよう気をつけます。（本当にごめんなさい！）

なお，８月２日からの特別展では㈱ジュン提供の服のデザイン，㈱ワシントン靴店提供の靴のデザイン，ランドサット衛星から眺めた東京や世界の都市，３次元CGなどパソコン等を使った興味ある企画の『見るコミュニケーション』を開催しておりますので，ぜひ，ご覧いただきますようご案内いたします。

７月31日　立田

＊＊＊＊＊＊＊

はじめまして。横浜こども科学館・天文係の出雲と申します。レスポンスが速くて，ヘルプが長くなくて分かりやすいBBSですね。

全国の社会施設の，情報交換の場として，たいへん素敵な試みであると思います。

皆さん多いに役立てましょう。

BBSを支えるのは，アクティブなユーザーであると思います。〔この世界では，メッセージ読むだけのユーザーをROM（リード・オンリー・メンバー），よくメッセージを書くユーザーを，RAM（何の短縮でしょう？？）と言うそうです。〕

情報を得るだけでなく，なるべく提供もしていきたいと，考えています。

どうぞ，よろしくお願いいたします。

出雲　晶子

＊＊＊＊＊＊＊

全科協　仕事の周辺から　　その２

博物館無休時代到来か？

科学技術館，船の科学館に始まった博物館の年中無休開館は，この夏交通博物館が８月中無休と，ポスターなどで宣伝しています。

そのせいでしょうか，本日（８月15日）月曜日には，朝８時45分から10時までに，かかってきた電話241本。このほとんどが，「今日は開館してますか？」の問い合せでした。お盆で上京した人たちが多いのでしょうか。

夏休み中の無休開館，これが博物館のニューウェイブになるのでしょうか？すでに，実施している館園のご意見をききたいと思います。

若宮広和

＊＊＊＊＊＊＊

メンバーの皆さまへ

MUSE―NETも運用を開始して５カ月になろうとしております。この間，多くの参加館と参加者と得ることができ楽しい会話と情報交換を行なうことができました。ご協力に感謝する次第です。

ところで，皆さまにもたびたびご迷惑をおかけしておりますように，現在，このホストはハードの故障とソフトのバグを抱えておりましてそれをだましだまし運転している状態です。

そこで，来る10月25日（火）の午後に両方とも入れ換える工事を行ないます。ソフトも変えるため今までのメッセージは整理して１つにまとめます。また，個人宛のメールは秘密保持のためシステム側では触りませんのでメンバーの方がそれぞれフロッピィなどに待避させて新しいシステムに再登録して下さい。

詳細，待避の方法などわからないことは，お近くの守岡，堀米，立田または，インストラクターへお問い合わせ下さい。

電気通信科学館　　立田

MUSE－NET に参加希望の全科協加盟館や，パソコン通信に関心のある方は，電気通信科学館・立田氏宛にお問い合わせください。電話 03-241-8080（代）

〔加盟館園紹介〕

パルテノン多摩

PARTHENON TAMA

〒206　多摩市落合2－35
電　話　(0423) 75－1414

パルテノン多摩は、昭和62年10月31日，多摩ニュータウンの中心地・多摩センター駅前に，国際化・文化化・都市化といった多摩市の未来をみつめるシンボルとしてオープンした。

本施設の特徴は，博物館機能とコンサートホール機能を合わせ持つ複合文化施設にある。

博物館機能では，「多摩の自然とくらし」をテーマとした常設展示室，自分自身で身近な不思議を探るミラクルラボ・観察実験室・電子顕微鏡室、20世紀初頭に製作された自動演奏楽器の名演奏が聴けるマジックサウンドルーム等のユニークな諸室を備えている。

1. 施設概要

建物構造　鉄筋コンクリート地下1階地上5階
敷地面積　103,560.00㎡
延床面積　15,283.57㎡（うち常設展示室699.16㎡，ミラクルラボ184.31㎡，マジックサウンドルーム121.42㎡）

2. 展示概要

◆多摩の過去と未来を探る“常設展示室”

＜テーマ①　宇宙の中の多摩＞

時間と空間を超えた宇宙の旅を、6面マルチスクリーンで展開し，広大な宇宙の生いたちから宇宙における多摩市の位置までを明らかにする。

＜テーマ②　成長する多摩＞

多摩ニュータウンの建設を境に大きく姿を変えた多摩市を，新旧の地形模型と67インチの映像を利用したQ＆A形式で紹介する。

＜テーマ③　多摩の自然とくらし＞

多摩の自然・歴史・くらしを、地学資料・考古資料・民俗資料等の実物やビデオ・模型で，様々な角度から動線にこだわることなく自由に郷土を学ぶことができる。

＜テーマ④　雑木林の自然＞

人々の生活と深く結びついていた雑木林。その成り立ちとしくみを，雑木林の木々やその中で暮らす動物たちが，ジオラマシアター形式で楽しく分りやすく説明する。

◆不思議がいっぱい“ミラクルラボ”

＜サイエンスファクトリー＞

植物・動物・地球圏・物の性質の4つのコーナーに各々6つの身近な観察実験とその進め方が記されたシートが用意されている。そのシートに従って，自分自身で観察

実験を行い，身近なサイエンスを体験する。

ミラクルラボでは，身のまわりに存在する多くの不思議に気付き，科学的好奇心を膨らませてもらいたいと考えている。

＜ビデオコーナー・図書コーナー＞

自然科学に関するビデオ約200本，図書約600冊が用意されており，自分の疑問や興味に合わせて調べものができる。

＜観察実験室・電子顕微鏡室＞

拡大の眼をテーマに，各種顕微鏡・顕微鏡テレビ装置から走査型電子顕微鏡までを用意し，人間の眼では見ることのできないミクロの世界を楽しむことができる。

◆貴重な音の文化財“マジックサウンドルーム”

自動演奏楽器は，録音再生技術が発達していなかった時代に，当時の職人たちの技術の粋を結集して製作されたものである。当施設には，20世紀初頭に製作された4台が展示されており，当時の名演奏を再生してくれる。

3. 講座事業

◆半径3mの科学“サイエンス・シアター”

半径3mの生活圏内から素材をとり上げ，月ごとに12のテーマを設定し，いつも見慣れた身近なものが持つ不思議さを楽しく演出する科学体験イベント。

このサイエンス・シアターを通して日常生活の中の不思議と出合い，サイエンスの目でもう一度自分たちの生活圏にあるものや現象を見直し，サイエンスの楽しさを発見してもらいたいと考えている。

◆サイエンス・シアターの他，1泊2日の天体観測“スカイハンター大集合”や植物観察会，縄文土器づくり講座，民俗学講座，日本史入門講座等の各種講座，そして各分野の超一流講師による講演会等幅広い文化活動を展開している。